

くっちゃん景観だより

第3号 2021年2月発行

お問い合わせ/発行者 倶知安町まちづくり新幹線課景観室
TEL 0136-56-8012 FAX 0136-23-2044 E-mail: keikan@town.kutchan.lg.jp

地域的なまとまりなどの景観要素の整理、各種会議の開催状況をお知らせします

第3号では、町の景観要素について、地域(面)・軸(線)・視点場(点)による整理の検討経過と、検討会議や市街地景観検討部会、景観地区検討部会での検討経過をお知らせします。

地域(面)・軸(線)・視点場(点)の3つの視点から 倶知安町の景観要素を整理しました

前号では5つの景観資源(自然・地形、産業、暮らし、雪、町民の愛着)から倶知安らしさにつながる景観特性についてお示しました。本号は地域(面)・軸(線)・視点場(点)といった地域的なまとまりの視点で、倶知安の豊かな自然、暮らし、産業、歴史・文化などから現れる景観要素について検討状況をお示します。

地域(面)・軸(線)・視点場(点)位置図

地域(面)による景観要素

環境や土地利用の違いにより4つの地域に分けて整理しています。
それぞれの地域ごとの特性を生かした景観形成が求められます。

(1) 市街地地域



- ・低層の建物が連なり、空が広く感じる駅前通り
- ・格子状の街区に秩序ある住宅地形成された市街地
- ・旭ヶ丘公園一帯は、緑豊かな町民憩いの拠点

(2) リゾート地域



- ・中高層のリゾート施設が集積するニセコひらふ地域
- ・大規模開発が計画的に進む花園ビレッジ地域
- ・豊かな緑・田園が残る旭・岩尾別・花園・樺山地域

(3) 農業地域



- ・尻別川流域、河岸段丘による台地に広大な農地が形成
- ・身近な森林と遠くの羊蹄山などの山並みによる美しい風景

(4) 森林地域



- ・北部と西部は国有林、羊蹄山は道有林があり、町の外縁を形成する緑豊かな山岳エリア

軸(線)による景観要素



町を印象づける重要な道路やサイクリングロード、散策路、河川を拾い上げています。

視点場(点)による景観要素



羊蹄山やニセコ連峰、尻別川や市街地などを望む大切な視点場を拾い上げています。

凡例

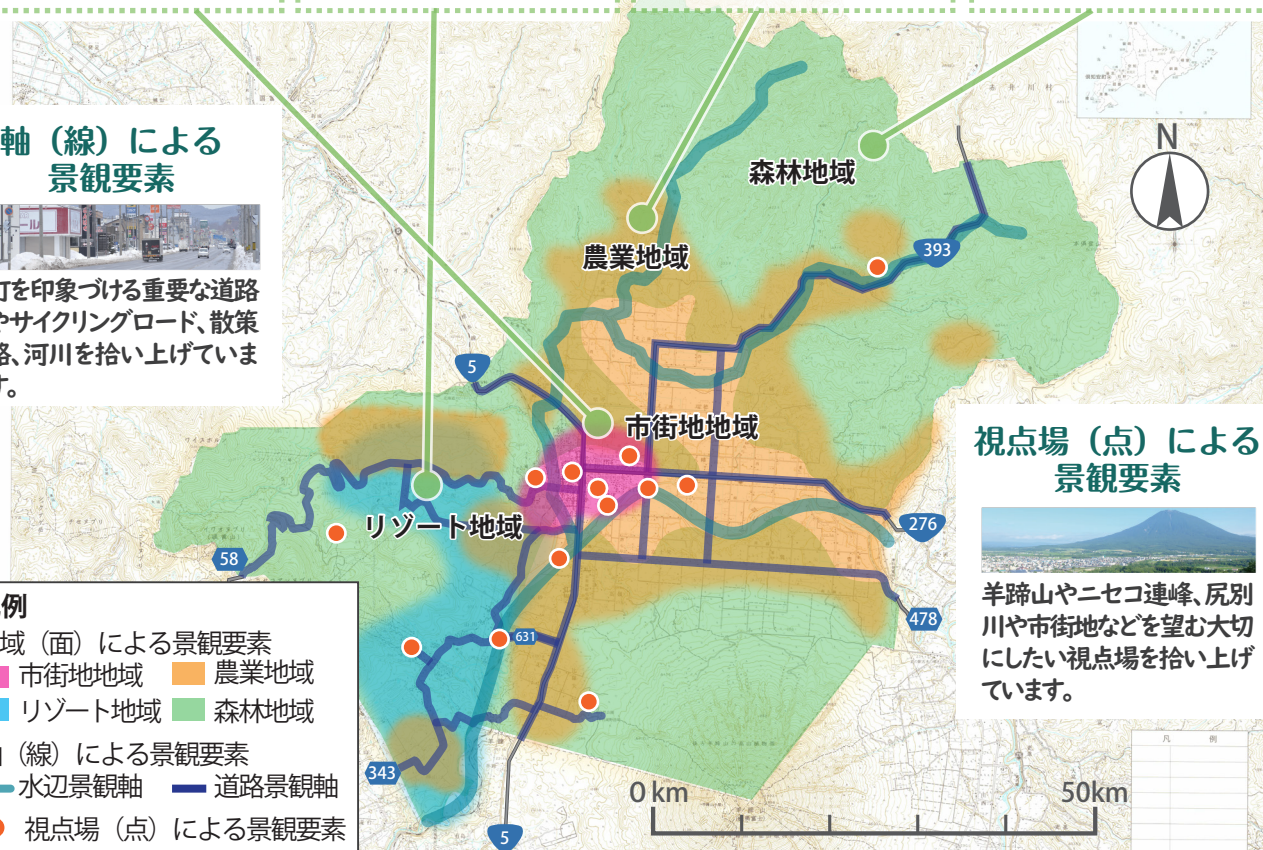
地域(面)による景観要素

- 市街地地域
- 農業地域
- リゾート地域
- 森林地域

軸(線)による景観要素

- 水辺景観軸
- 道路景観軸

- 視点場(点)による景観要素



これまでに開催された検討会議、部会の報告

町の景観に関する検討に伴い、12月には検討会議、景観地区検討部会、市街地景観検討部会をそれぞれ1回ずつ開催しました。(詳細は町ホームページに公開しています。)

第4回 景観計画・緑の基本計画検討会議

日時：2020年12月25日(金)午後2時00分～午後4時30分
場所：倶知安町役場3階 会議室



◆議題「倶知安町の景観特性について・地域ごとの景観要素と課題について」

意見交換の一例

- ・春夏秋冬をキーワードに景観特性について整理を進めて行くと、より倶知安町らしさが出るのではないかと。特に、観光面では夏にどれだけ人を呼べるような魅力的な景観をつくれるかという視点も大切である。
- ・開拓の時代から現在を比べると変わってしまったものもあるが、歴史的・文化的に重要な資源もまだある。まちの成り立ちや歴史の視点から景観を整理することで、さらに魅力に対する理解が深まるのではないかと。

第4回 景観地区検討部会

日時：2020年12月22日(火)午後2時00分～午後4時30分
場所：ホテルニセコアルペン2階 シュプール



◆議題「土地利用のゾーニングイメージについて(景観地区内)」

意見交換の一例

- ・すでに建物が過密に建っている地域において開発容量をコントロールするには、現行の建築ルールを変更するのは難しいと思う。緑化や雪、駐車スペースの確保などの敷地の使い方によるルールを設定すると効果的ではないかと。
- ・森林・農地で形成されているエリアについて、手付かずに見えるところでも投資の手が付いているところが多い。みんなが少しずつ我慢して森林が残るように全体の開発密度を下げていくような保全の方法を考える必要がある。

第3回 市街地景観検討部会

日時：2020年12月11日(金)午後2時00分～午後4時30分
場所：倶知安町 中小企業センターホール



◆議題「駅周辺の景観形成の方向性について～駅舎、駅前広場、駅前通り、国道5号など～」

意見交換の一例

- ・駅前広場については、駅前通りとの連続性を考えながらそれぞれの使われ方を含めて、役割や方向性を整理していくことが必要である。
- ・一律に高さ等を制限していくよりも、羊蹄山が見えるところからの眺望を守りながら、魅力を損ねないで経済活動を回していくような視点が必要である。
- ・駅前通りでは、これからお店が建っていくことを想定して、歩いていて楽しいという街並みをつくっていくことが必要であり、そのための約束事を今から決めていくと良い。

準都市計画区域の拡大を検討しています

スキー場周辺のリゾート開発が拡大傾向にあり、今後も宿泊施設を中心に投資的な土地利用の拡大が想定されます。

現在、ニセコひらふ地区や花園ビレッジ地区などにおいて準都市計画区域を定めていますが、今後の開発動向を見据え、外側の無指定地域において、周辺環境の維持、自然環境の保全などの観点から秩序ある土地利用とする必要があると考えており、準都市計画区域の拡大、建築物等の制限(建築物の用途の制限など)を検討しています。

※今後、関係する地域の皆さまにアンケートや懇談の場を設け、具体的な範囲・ルールの検討を進め、令和4年3月頃の指定を目指しております。

<拡大を検討している地域>

- ・国道5号周辺(比羅夫、高砂、峠下)
- ・上水道の取水地周辺の羊蹄山麓(比羅夫、高砂など)
- ・硫黄川の北側(旭、花園)
- ・ワイススキー場周辺(花園)

～景観室から～「雪が作り出す思いやりの精神について」(倶知安町まちづくり新幹線課景観室景観係 主事 八田 裕誓)



(スキーを伝えたレルヒ中佐
レルヒ記念公園で撮影)

スノーボードで雪面を滑るとき、その軽い雪質には毎年驚かされるとともに、羊蹄山やニセコ連峰があることで、パウダースノーが降り積もる恵まれた地形であることに有難さを感じています。さて、倶知安に暮らし始めてから2回目の冬を過ごしていますが、狭くなった歩道では人とすれ違うときに、自ら深くなっているところへ踏み込み、お互いに道を譲り合うことが頻繁にあります。雪とともに暮らすことによる、思いやりの精神が自然と培われていることに気付かされます。これからも相手を思いやる心を持って、日々の暮らしを豊かにしていきたいです。